

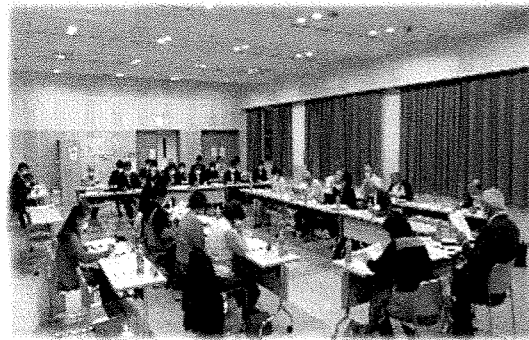

# 大分南部地域まちづくりビジョンフォローアップ会議通信 第4号

発行：令和5年1月11日 大分南部地域まちづくりビジョンフォローアップ会議事務局

この通信は、地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の内容について地域の皆様にご報告するとともに、地域の現状や課題、将来像について共有していただくために発行いたします。

## 【フォローアップ会議を開催しました】

日時：令和4年10月26日（水）  
19時～  
場所：大分南部公民館 音楽室



## 地域まちづくりビジョンフォローアップ会議の目的

個性を活かした魅力ある地域づくりを推進するため、市内13地域において、それぞれの地域が目指すまちの将来像やその実現に向けた取組をまとめた「地域まちづくりビジョン」が策定され、平成30年7月に市長に提言されました。

地域まちづくりビジョンフォローアップ会議は、地域が目指す将来像の実現に向けて、市民と行政と一緒にまちづくりを進めるため「地域まちづくりビジョン」に掲げる事業について、「行政に望むこと」「地域でできること」「私たちができること」のそれぞれのテーマにおいて、取組状況を報告し、各取組の今後の進め方や課題などについて情報共有、意見交換を行うものです。

## □地域まちづくりビジョンに掲げる事業の取組状況について（抜粋）

### ○提言1「住み続けたい、帰ってきたい地域づくり」

#### 大分駅・滝尾駅間新駅建設

- ・【市】令和2年6月に庁内関係部局による研究グループを立ち上げている。期成会と調整のうえ、令和3年8月に新駅利用意向アンケート調査を実施し、調査結果をJR九州に説明している。その後、JR九州と協議を重ね、新駅設置に必要な費用や収支の予測、新駅を設置した場合の周辺踏切への影響などについて検討を進めている。
- ・【地域】令和元年11月に滝尾地区連合自治会が主体となる「大分・滝尾駅間新駅建設促進期成会」が設立され、令和2年6月に市議会への請願が採択、令和2年7月、令和4年2月にJR九州大分支社への要望、令和2年12月にはJR九州本社へ要望活動を行っており、JR九州からは請願駅（請願者負担）として検討することの回答を受けている。



#### 滝尾中部地区住環境整備事業

- ・平成29年度に都市計画道路「片島松岡線」の事業計画の認可を受け、平成30年度から建物等移転補償及び用地買収を実施している。
- ・今年度も引き続き、建物等移転補償及び用地買収を実施するとともに、JR九州と工事協定を締結し、令和5年度からJR豊肥線アンダーパス区間の工事に着手する予定である。

## 地区拠点まちづくり基本構想

- ・滝尾駅周辺において、道路を含めた住環境の改善などに向けた整備を行うため、令和2年度より地元とまちあるきや勉強会（R4、9月末時点で3回実施）を実施しており、整備箇所や短・中・長程度のスケジュールも含めた「滝尾駅周辺整備基本構想」を令和4年度末までに策定することとしている。
- ・都市計画道路「滝尾駅前線」については、令和3年度に概略設計を行い、今年度も整備実施に向けた検討を進めている。

## 公園の整備

- ・【市】防災機能を備えた「下郡あおぞら公園」を整備した。
- ・【地域】5月29日に「あおぞらフェスタ」（イベント）を開催した。（芸能・文化の発表や地震体験をしたり、防災対策物品の展示を行い、防災意識の向上を図ることができた。）



## ○提言2「地域の歴史的・文化的遺産などを活かした地域交流の充実」

### 史跡めぐりウォーキング

- ・【取組状況】令和2年度に、再度子どもサポーターを募集し、集まった8人の子どもに研修を行い、史跡めぐりウォーキングの際に、ガイドをしてもらった。令和3年度については、コロナウイルス感染拡大により中止とした。令和4年度は実施に向けて準備中。
- ・【市】滝尾地区史跡めぐりウォーキングの際に、要請に応じて専門職員の派遣等を行っていく。
- ・【地域】滝尾地区史跡めぐりウォーキングを実施する際に、自治会長やPTA、防災士、健康推進委員、校区公民館、フォローアップ委員の方々により、ウォーキングへの参加や、交通指導などを行う。

### サロン活動・地域活動

- ・【地域ふれあいサロン】令和4年度は、市内259自治体でサロン活動を実施している。滝尾地区では、7サロンで計166回、延べ3,067人（令和3年度）が運動や小物作り等の活動を行い交流を深めた。月2回程度の頻度で、ゲームや歌唱、健康相談を行うなど、高齢者の生きがいづくりや仲間づくり、介護予防の場を提供している。
- ・【地域まちづくり事業】曲石仏おせたい、下郡っ子いきいき倶楽部、竹灯籠鑑賞会

## ○提言3「災害に備えた取組の推進」

### 片島雨水排水ポンプ場建設事業

- ・片島地区及び羽田地区の浸水対策として、片島雨水排水ポンプ場の建設を行っている。ポンプ能力180㎡/秒を排水可能であり、現有の皆春・元町ポンプ場に次ぐ規模となる。・現在、土木建築工事はほぼ完了し、機械電気工事を施工中。令和5年3月供用開始予定。

### 防災関連事業

- ・市内に29台の水害監視カメラを設置し、WEB公開している。また、大分市高潮ハザードマップを作製し、市民に公表している。全般的な災害情報は、大分市HPやSNS等で発信しており、避難情報など地域への情報は、自治委員及び自主防災組織を通じて連絡する体制を構築している。
- ・地域防災リーダーとしての役割を担う人材として、防災士を養成している。

## □意見交換での主な内容（抜粋）

- ・滝尾橋手前のガード下の排水対策についてどのようになっていますか。  
（回答）同地区の浸水被害軽減の為、災害対策ポンプを設置する事業を進めています。供用開始予定は令和6年3月で令和6年度の出水期には稼働出来る予定です。
- ・大きな道路の整備もありがたいのですが、子どもたちの通学路の整備もお願いしたい。

□地域の活動報告について（抜粋）

○曲石仏おせったいと石仏保存工事について 曲自治会 大山 義雄



1. 【おせったいの復活】

これまで、曲地区住民の有志の皆さんが、弘法大師とゆかりのある春分の日と秋分の日2回、曲石仏前において「おせったい」を行ってきたが、皆さんが高齢化してきたことなどから、20年ほど前から行われなくなってきた。

こうしたこともあって、特に曲石仏前広場では、竹が群生してきたため、地区住民も石仏に近づきにくい状況が続いていた。そのような中、曲自治会では、平成27年に市の「ご近所の底力再生事業助成金」を活用してチェーンソーや草刈り機などを購入して、石仏周辺の竹の伐採を行い、これにより広がった石仏前広場において、かつて行われていた、おせったいを復活させることとした。曲石仏周辺に群生していた竹の伐採作業には曲八幡神社宮総代や曲自治会の自治会長など多くの有志の皆さんが参加し、2日間にわたって竹を伐採した。このように皆さんの協力により広がった曲石仏前広場において、平成27年9月からおせったいが復活されることになった。

2. 【おせったいの実施】

このおせったいの復活にあたって、森岡青少協が中心となって、曲子ども会、曲寿会や曲自治会などの関係者で「広め隊チャレンジ実行委員会」を構成し、この委員会が市の「豊の都市校区人づくり推進事業」の助成金を活用して、おせったいを実施することとなった。

おせったい復活の初年度となった平成27年9月23日の秋分の日には、朝早くから曲寿会の会員をはじめ多くの皆さんが曲公民館の調理室で、市の助成金により購入した小麦粉から「やせうま」を作った。午後から始まった石仏前でのおせったいでは、会場を訪れた200人の親子にできたばかりのやせうまとお菓子を提供した。



3. 【おせったい復活の目的と効果】

おせったい復活の目的は、曲地区の子どもたちが昔から連綿と続いてきた「おせったい」という地区の習慣を体験し、また、子どもたちにこの風習を継承させていくきっかけを作ることにより、地元を愛する子どもたちを育てることであったが、この目的は達成されつつあると考えている。

またおせったいを通じて地区の大人と子どもたちのコミュニケーションが進むとともに、森岡小学校の児童がおせったいを前に石仏に通じる階段の清掃を行うなど、子どもたちの中に曲石仏という地区の財産を守っていかうとする気持ちが芽生えてきた。

さらに、個人宅でもおせったいを復活したところも出てくるなど、地区の活性化にも寄与することができたと考えている。



4. 【本年度のおせったい】

本年度の曲石仏のおせったいは、秋分の日9月23日に行い、石仏を訪れた120人の子どもたちにお菓子を提供した。次のおせったいは、来年3月21日の春分の日実施することとしている。

また、これまでどおり、森岡小学校の子どもたちに石仏前とそれ以外でおせったいを行っている場所を表示した「おせったいマップ」を配布するとともに、おせったいの会場前には「おせったい」と書かれたのぼり旗を設置した。

大分南部地域まちづくりビジョン 概要

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎える中、大分市においても、人口が減少に転じており、地域の活力維持や地域コミュニティの希薄化など、さまざまな課題が懸念されています。これらの課題解決のためには、行政が地域の現状を的確に把握し、市政への反映に努めることが必要と考えられています。

このような状況を受け、この大分南部地域では地域の活力維持・増進を図ることを目的に、地域の代表者で構成する「地域ビジョン会議」を平成29年5月に設置し、地域の現状や課題などを議論し、地域の将来像として「大分南部地域まちづくりビジョン」を平成30年7月に策定しました。

地域の目指すべき姿(将来像)～自然豊かな温故知新を体感できるまち～

提言	事業番号	事業名	内容
提言1「住み続けたいくなる地域づくり」	1	子育てしやすい住環境の整備	地域内の道路が狭く、通学路を通り抜ける車も多いため危険です。また、地域に子どもが少なくなっており、地域活性化と住環境の改善が必要であることから、道路、駅、公園などの整備を行う。
	2	JRの線路を利用して富山方式の路面電車を走らせる	大分駅から大分大学駅の間に、3～400m間隔で新駅を設置し、路面電車を走らせることで観光客を集めることができ、高齢者にも優しい公共交通となります。
	3	滝尾駅前の広い空地を活用	滝尾駅北西の空地を有効活用できるようにしてほしい。市からもJRに働きかけをしてほしい。
	4	下郡駅の開設とその沿線に防災公園のある桜並木道の整備	歴史に裏打ちされた地域の観光資源を活かすため、人が集まりやすくなる新駅、沿線道路の整備を行う。宗麟大橋の開通により交通量が増加しているため、渋滞の緩和にもつながる整備を行う。
	5	利便性に富んだ街づくり	曲などの地区内の狭い抜け道を通る車が多く危険なため、バイパス道路を整備する。
提言2「地域の歴史的・文化的遺産などを活かした地域交流の充実」	6	豊富な歴史を活かした旧跡めぐりサポーターの育成	南部地域の豊富な歴史資源を活用するため、百穴や曲石仏などの地域の歴史を伝える旧跡めぐり子どもサポーターを育成する。郷土愛の醸成につながり、歴史探索などで多世代が交流でき、子育てサークルなども楽しめる機会の創出につながる。
	7	子育てサロン・地域ふれあいサロンなど未来へつなぐコミュニティの充実・拡充	開催回数の増加や対象者、対象地域の拡大など、子育て世代もそれ以外の人もいきいきと交流しやすい環境の整備を行う。
提言2・3	8	下郡に新たな公園整備	3校区の子どもが集まれるような公園を整備し、人が集い、子どもが安心して遊べる拠点とする。駐車場や駅に近接した公園を中心に、地域の活性化を図るとともに、防災公園として防災情報の発信等も行う。
進 備 提 言 3「災害に え た 取 組 の 推 進	9	児童と高齢者が安全に避難できる避難設備（インフラ）の整備	避難拠点となる避難所などへの周辺道路の幅員確保などの整備を行う。緊急車両が入れない道路の拡幅、排水路整備など安全安心に資する整備を行う。
	10	安心・安全な地域づくり	昨年の台風18号により地域内では床下浸水が発生したこともあり、防災に役立つ情報を地域の人たちで共有するとともに、防災人材の育成などにより、防災意識の向上に役立てる。